



木の駅プロジェクト
森づくり活動を後押し

南自治会（市島地域）が12月13日、森づくり活動の促進をめざす「丹波市木の駅プロジェクト」に参加し、木材を初出荷しました。
同自治会では、昨年から先人が残した森を次代につなぎたいと森づくり活動を開始。今回、自治会員が木の伐採、サイズ調整、運搬を役割分担し、木材を出荷しました。
高見副自治会長は「間伐材の有効利用につながり、活動資金も得られるので、今後の活動の励みになる」と話しました。



地域の森から切り出した木材を出荷する様子（市島町上竹田）

Challenge!
英語スピーチコンテスト

12月12日に、ハートフルかすがで「中学校英語スピーチコンテスト」が開催されました。
「Challenge!（チャレンジ）」をテーマに、市内各中学校2名の代表者が約3分間のスピーチを行い、自分の経験や将来の夢、挑戦したいことなどを表現豊かに発表しました。
優秀賞に村岡若菜さん（山南中3年）、堂本泰暉さん（和田中3年）、中谷遼香さん（氷上中3年）の3名が選ばれました。



身振り・手振りを交えてスピーチする村岡若菜さん

国内初・世界で7例目！
非常に小型の卵化石を密集状態で発見

丹波竜化石の発掘現場脇（山南町上滝）で、獣脚類恐竜もしくは鳥類と考えられる非常に小型の卵化石などが密集した状態で、複数発見されました。この発見は国内では例がなく、世界でも7例目の極めて稀なものです。
この卵化石は、“丹波竜に続く新たな化石を発見しよう”と上久下地域自治協議会が市民約10人と県立人と自然の博物館の協力で行った試掘調査で見つかりました。丹波竜同様、市民の手で掘り起こされた化石は恐竜・鳥類の繁殖行動の進化を解明する上で貴重な資料となります。



発見された卵化石（点線で囲まれた部分）

健康フォーラム開催
しっかり学んで `ぐっすり・すやすや、

12月13日、春日文化ホールで健康について学ぶ「健康フォーラム」が開催されました。
フォーラムでは、質のよい睡眠を確保することで心身ともに健康に生活ができることをめざす「ぐっすり・すやすや運動」についての発表や講演が行われたほか、健康チェックができるコーナーが設けられました。参加者たちは「早寝・早起き・朝ごはん」を定着させ、健康体力の礎である睡眠の質を高めることが大切だと学びました。



血管推定年齢など健康チェックを受ける参加者



春日神社ではじめての福男選び
初代福男は「前田壮一郎」さんと「井上祥一」さん

1月10日、春日神社（春日町野村）で「福男選び」が開催されました。
「福男選び」とは同神社御旅所付近から本殿までの約230mを大人や子どもが全力で走り、最も速かった人を「福男」としてたたえる催しです。春日神社は、毎年神事として「福男選び」を行っている西宮神社の分社であることから、地域おこしになればと地元青年会が企画しました。
初代福男は前田壮一郎さん（小学生の部）、井上祥一さん（一般の部）。小学生の部21人、一般の部25人の中から選ばれました。2人は勝因について「一番になるという強い気持ちがあったから」（前田さん）「スタート位置のくじ運がよかった。陸上部の経験が生きた」（井上さん）と話してくれました。



①境内を走り抜ける参加者たち②レースの舞台となった参道③初代福男の前田さん（写真左）と井上さん（写真右）

丹波栗の栽培技術普及・発展に貢献
河村さんが「兵庫県農業賞」を受賞

農業経営・技術に優れ、多年にわたり県の農業振興に貢献し、その功績が顕著な方に贈られる「兵庫県農業賞」を河村修治さん（山南地域）が受賞しました。
河村さんは、果樹栽培の先進技術導入に取り組み、特に栗の低樹高栽培技術の確立に尽力しました。また、丹波栗剪定土としての技術指導や、丹波栗再生プロジェクトに参画し、地域の生産者とともに丹波栗の大幅な作付面積拡大を実現。その活動の功績が認められました。



兵庫県農業賞を受賞した河村修治さん（写真左）と辻市長



三尾山でご来光
元旦登山に挑戦

1月1日、第36回「三尾山の元旦登山」（春日町国領）が行われました。
今年は5歳から70歳までの250人が参加し、新年のあいさつを交わしながら、山を登りを楽しみました。
参加者たちは、眼下に広がる美しい雲海を眺めたり、写真に収めたりしながら、新年の訪れを祝いました。



三尾山から望む雲海（写真提供：市民リポーター 鴻谷さん）